

ホール常設展示

帝国図書館から  
国際子ども図書館へ



旧「特別閲覧室」昭和初期撮影  
(撮影当時は図書出納室。現「児童書ギャラリー」)



レンガ棟 平成16(2004)年撮影



アーチ棟 平成27(2015)年撮影



創建時のレンガ棟 明治39(1906)年頃撮影

国際子ども図書館のレンガ棟の建物は、明治39(1906)年に帝国図書館として建てられ、昭和4(1929)年に増築されたルネサンス様式の建物を再生・利用したものです。帝国図書館は、戦後、国立図書館と名称が変わり、昭和23(1948)年の国立国会図書館の創設とともに、その支部図書館となりました。その後、平成10(1998)年まで支部上野図書館の施設として使用されてきましたが、国立初の児童書専門図書館として生まれ変わることになり、平成12(2000)年に国際子ども図書館として開館しました。平成27(2015)年には、新館(アーチ棟)も完成しています。この展示では、今日までの建物の歴史・変遷をご紹介します。

— 古きを<sup>たず</sup>温ねて新しきを知る —



旧「普通閲覧室」現「本のミュージアム」明治39(1906)年頃撮影



帝国図書館 館名板

開館時間：午前9時30分～午後5:00  
展示場所：国際子ども図書館レンガ棟3階ホール  
休館日：月曜日、国民の祝日・休日(5月5日のこどもの日は開館)、  
年末年始、第3水曜日(資料整理休館日)



International Library of Children's Literature  
国立国会図書館 国際子ども図書館

## 書籍館から帝国図書館設立まで

明治5(1872)年、文部省により、日本初の近代的図書館として書籍館が湯島聖堂内に開設されました。この施設が帝国図書館の前身とされています。書籍館はその後、東京書籍館(湯島)、東京府書籍館(湯島)、東京図書館(湯島、後に上野)と移り変わりましたが、国立図書館といえる規模には到りませんでした。

東京図書館長であった田中稲城(初代帝国図書館長)の熱心な働きかけを受け、明治29(1896)年の第9回帝国議会において「帝国図書館ヲ設立スルノ建議案」が貴族院・衆議院の両院でそれぞれ可決されました。明治30(1897)年4月、勅令をもって「帝国図書館官制」が公布され、新しい国立図書館建設の第一歩が踏み出されました。

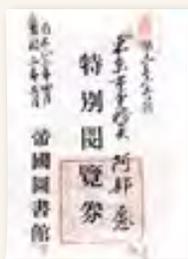
その後、建設用地が決まるまでに時間を要しましたが、紆余曲折の末、明治32(1899)年、最終的に上野公園内音楽学校敷地内の空地に決定されました。三期にわたる建築計画が立てられ、当初の予算は各期50万円(現在の貨幣価値で約7億8千万円)とされましたが、日露戦争後の財政逼迫のため第一期工事の費用は32万円(現在の貨幣価値で約5億円)に抑えられ、予定より規模を縮小して明治39(1906)年に帝国図書館が開館しました。

## 帝国図書館時代の資料



帝國圖書館設立案

田中稲城が長年温めてきたもの。第9回帝国議会貴族院本会議において、重野安禎議員及び外山正一議員が帝国図書館設立を建議した際、議会に提出された。



特別閲覧券

帝国図書館にて閲覧室利用時に使用されていました。



帝國圖書館焼き鰻

事務用品に焼印を押すために使われていた鰻。



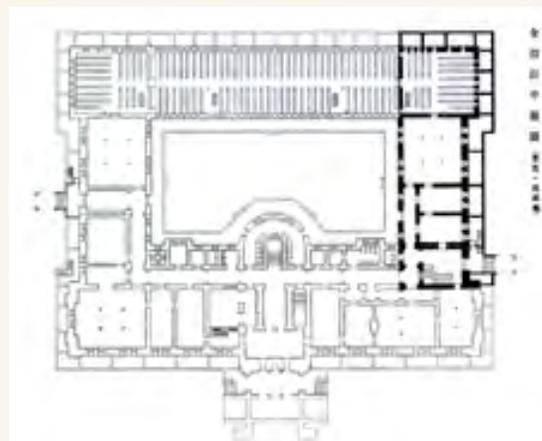
旧東京図書館(現東京芸術大学敷地内)



明治期建築中の帝国図書館

## 明治当初の建築計画

文部技師の真水英夫が、米国で最新の設備を持つ公共図書館を調査し、シカゴにあるニューベリー図書館をモデルに原案を作成しました。予算が削られたため、当初計画の一部のみが実現しました。



実施計画案『帝国図書館概要』明治39(1906)年  
黒塗りの部分は実際に建設された壁。

## 文学作品の中の帝国図書館



著者 芥川龍之介

近代日本人の肖像

<http://www.ndl.go.jp/portrait/index.html>

### 『大道寺信輔の半生』(抜粋)

大橋図書館から帝國圖書館へ。彼は帝國図書館の與へた第一の感銘を覚えてゐる。一高い天井に對する恐怖を、大きい窓に對する恐怖を、無数の椅子を埋め盡した無数の人人に對する恐怖を。が、恐怖は幸ひにも二三度通ふうちに消滅した。彼は忽ち閲覧室に、鐵の階段にカタロオグの箱に、地下の食堂に親しみ出した。

### 『圖書館幻想』(抜粋)

著者 宮沢賢治

その天井は途方もなく高かった。全館その天井や壁が灰色の陰影だけで出来てゐるのか、つめたい漆喰で固めあげられてゐるのかわからなかった。(中略) 高さ二丈ばかりの大きな扉が半分開いてゐた。おれはするりとはいつて行った。室の中はガランとしてつめたく、せいの低いダルゲが手を額にかざしてその巨きな窓から西のそらをじっと眺めてゐた。

